

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第18週(4月29日～5月5日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症(1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	171	4963
[3類]		
細菌性赤痢		19
腸管出血性大腸菌感染症	29	467
腸チフス	1	12
パラチフス	1	3
[4類]		
E型肝炎	13	182
A型肝炎	4	47
エキノкокクス症		3
エムボックス ¹⁾	1	13
回帰熱		1
Q熱		6
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	6	32
つつが虫病	1	66
デング熱	3	58
日本紅斑熱	17	43
日本脳炎		1
マラリア		11
レジオネラ症	18	536
レプトスピラ症		1
[5類]		
アメーバ赤痢	8	187
ウイルス性肝炎 ²⁾	1	66
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	22	625
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		12
急性脳炎 ⁵⁾	8	215
クリプトスポリジウム症		9
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	57
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18	801
後天性免疫不全症候群	5	310
ジアルジア症	1	16
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	225
侵襲性髄膜炎菌感染症		14
侵襲性肺炎球菌感染症	43	957
水痘(入院例に限る)	4	155
梅毒	101	4374
播種性クリプトкокクス症	2	76
破傷風	1	19
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	43
百日咳	14	261
風しん		4
麻疹		21

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	2199	0.45
新型コロナウイルス感染症	11086	2.27
RSウイルス感染症	3905	1.26
咽頭結膜熱	1564	0.51
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8328	2.69
感染性胃腸炎	8029	2.59
水痘	330	0.11
手足口病	1890	0.61
伝染性紅斑	77	0.02
突発性発しん	672	0.22
ヘルパンギーナ	238	0.08
流行性耳下腺炎	117	0.04
急性出血性結膜炎	8	0.01
流行性角結膜炎	298	0.44
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	8	0.02
無菌性髄膜炎	7	0.01
マイコプラズマ肺炎	67	0.14
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ⁹⁾	6	0.01
インフルエンザ(入院患者)	42	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1076	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	沖縄、山形、秋田
新型コロナウイルス感染症	↓	沖縄、青森、秋田
RSウイルス感染症	↓	山口、奈良、和歌山
咽頭結膜熱	↓	岩手、鹿児島、鳥取
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	山形、鳥取、北海道
感染性胃腸炎	↓	富山、大分、石川
手足口病	↑	大分、愛媛、福井
伝染性紅斑	↓	東京、神奈川、高知
ヘルパンギーナ	↓	愛媛、大分、群馬
流行性耳下腺炎	↓	香川、鳥取、奈良
マイコプラズマ肺炎	↓	沖縄、福井、青森、佐賀

◆5類感染症(定点当たり報告数)

インフルエンザの定点当たり報告数は第12週以降減少が続いている。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第6週以降減少が続いている。手足口病の定点当たり報告数は第13週以降増加が続いており、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。

※第17週のデータはこちらをご覧ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2024/idwr2024-17-18.pdf>

